

心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	八千代市立高津小学校	
ア 全校児童生徒数	464名	(令和4年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	第4学年(80名) ※特別支援学級児童の交流を含む 第5学年(72名) 第6学年(107名) ※特別支援学級児童の交流含む	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	<p>学校における活動</p> <p><第4学年> 教科名(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者と健常者の垣根を超えた交流を通して、子どもたちに多様性や人間の可能性について考える。 ・全盲の方との交流、白杖や車いすの体験を通して、障がい者の方の生活を実感する。 <p><第5学年> 教科名(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ大会を学年で開催し、大会運営・ボッチャ及びゴールボール競技の体験を通して、「やる・見る・支える」の視点から、スポーツの素晴らしさを学ぶ。 ・パラスポーツの体験を通し、多様性社会の意義やノーマライゼーションの精神を学ぶ。 <p><第6学年> 教科名(総合的な学習の時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツを行う競技者の方とのふれあいを通して、パラスポーツへの興味関心を持ち、多様性社会について考える。 <p>【福祉体験】(第4学年)</p> <p>10月20日(木)21日(金)の2日間、延べ4時間に渡って実施した。20日は、社会福祉協議会の方をお招きし、その方の講話を通じてバリアフリー化する町の様々な工夫や取り組みについて教えていただいた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>21日(金)は、社会福祉協議会の方の協力を得て、全盲の方をお招きし、交流を行った。実際にアイマスクをかけ、白杖体験や車いすで校舎内を移動するなどの体験を行った。</p>	

	<p>【車いすテニス体験】(第6学年) 12月1日(木),自身も車いすプレーヤーである方を招き,パラスポーツの実際を知る。体育館で競技用の車いすに乗り,コントロールの難しさを体験する。さらに,ラケットでボールを打ち返す体験を通して,パラスポーツの可能性について考えさせる時間となった。</p>  <p>【高津小パラリンピック大会を開催しよう】 12月6日(火)～9日(金)の期間で実施それぞれの種目で各クラスを数グループに分け,予選総当たり戦・決勝トーナメント戦を実施。大会運営は児童が行い,賞状や賞品なども児童が全て手作りした。1学期期間中に,パラスポーツについて調べ学習を行い,大会運営に臨んだ。</p>
<p>エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)</p>	<p>○学年だよりにて保護者に周知 ○地域在住のパラスポーツ選手を招聘し,体験などを含めた交流を行った。 ※それ以外は,新型コロナ感染対策のため,特に地域等の交流は行わなかった。</p>
<p>オ 実践成果 (児童生徒の変化など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常では体験できない競技用車いすへの乗車体験を通して,様々なスポーツへの関心や可能性を感じることができた。 ・実際の障がい者の方とのふれあいを通して,多様性社会について考えることができた。 ・外部講師を招聘し,様々な交流を通じた「本物体験」を味わうことで,図書資料やインターネットだけでは学べない生きた学習を実施することができた。
<p>カ 次年度の予定 (課題や改善策など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も,本校ではこういった福祉教育に取り組んでいく。4・5・6年生だけでなく,3年生以下においても,総合的な学習の時間,生活科などの年間指導計画に位置付け,継続して福祉教育を充実させていく。 ・体育科の年間指導計画にパラスポーツ体験を位置づけ,各学年や,特別支援学級との交流及び共同活動との合科的プログラムを確立させ,体験を行っていく。
<p>キ 添付資料 (広報資料・Web記事など)</p>	

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。